



修学旅行通信

沖縄コース

修学旅行の行程表(1日目)

日次	月日(曜)	行程	宿泊地
1	2024年12/9(月)	ANA303 中部国際空港 → 那覇空港 == レストショップ琉球の館(昼食)・・・ひめゆりの塔/資料館(入場) 8:40 11:05 12:00 12:30~13:15 13:20~14:20 == 平和祈念公園・資料館(入場) == キャプテンズイン東町(夕食) == ホテル(泊) 14:30~17:00 18:00~19:10 19:20	【那覇】 パシフィックホテル沖縄

※注:行程表は変更することがあります。

～ 平和学習 ～

沖縄への修学旅行の目的の1つに平和学習があります。特に沖縄は日本で唯一、米軍が上陸して地上戦が行われた地です。1945年4月1日に最初に米軍が上陸し、同年6月23日に終結するまでに島民の約4分の1が亡くなったとされています。温暖でも暖かい沖縄ですが、沖縄戦の悲しい歴史の上に成り立っていることを理解して修学旅行に行き、様々なとふれあって平和について多くのことを学んでください。

① 平和祈念公園 (1日目)

場所 糸満市摩文仁の丘<沖縄地上戦最後の激戦地>

施設

- 平和祈念資料館：公園内には沖縄戦の写真や遺品を展示
- 平和の礎(いしじ)：沖縄戦などで亡くなられた全ての人々の氏名が刻まれている。
- 平和祈念堂：戦没者の鎮魂と永遠の平和を祈る平和祈念像、国立沖縄戦没者墓苑などがある。
- 平和の火：平和の礎の広場中央にあり、沖縄戦で米軍が最初に座間味村阿嘉島で採取した火と、被爆地広島市の「平和の灯」及び長崎市の「誓いの火」から分けていただいた火を合火したものが灯されています。



② ひめゆりの塔・資料館 (1日目)

1945年の沖縄戦で亡くなった沖縄師範学校女子部・沖縄県立第一高等女学校の生徒や教師「ひめゆり学徒隊」のための慰霊碑です。沖縄戦の翌年、両校で最も多くの犠牲者を出したガマ(鍾乳洞)の上に建てられました。



●建立 1946年4月5日
●刻銘 227人
沖縄戦で亡くなった沖縄師範学校女子部・沖縄県立第一高等女学校の生徒と教師 ひめゆり学徒隊 136人 以外の在校生・教師 91人

大戦中、沖縄県では日本軍が中心となって看護訓練で作られた女子学徒隊のひとつに「ひめゆり学徒隊」がありました。この女子学徒隊は看護要員として、横穴の壕(壕：沖縄では「ガマ」と呼ばれる自然洞窟)でできた沖縄陸軍病院や戦線に動員され、砲煙弾雨の中、身の危険も顧みず、負傷兵の看護や死体処理、医療・食料品の運搬など献身的に協力しました。米軍が上陸し敗戦が濃厚になる中、解散命令がでたため、投降ができずに集団自決をした者もいるとされています。

③ 伊江島 (2・3日目、民泊、レジャー体験)



公益質屋跡



ニャティヤ洞

・沖縄本島の北西部に位置
・フェリーで約30分の距離
この島には、数多くの戦争の爪痕が残されています。

沖縄戦の開始前にも、飛行場があったために何度も空爆されました。米軍が沖縄本島に上陸した後、4月16日には伊江島に上陸し、壮絶な攻防の末に同月21日には米軍に確保されました。戦前は約7,000名いた島民ですが、米軍が上陸した時には約3,000名が残っており、そのうちの半数の約1,500名が亡くなりました。また日本側の軍人も約2,000名が亡くなっています。激戦地だった場所に公益質屋跡があります。当時の建物で残っているのは、ほぼこれだけだと言われていますが、その姿は当時の戦闘の激しさを物語っています。また人気の観光スポットとなっているニャティヤ洞は、戦時中には多くの島民が避難してきたため、千人洞とも呼ばれています。

○最後に…

私たちが当たり前で享受している平和。そこには多くの人に関わり、平和を得るために努力や命を捧げてきた歴史があります。今回の修学旅行で多くの場所を訪れ、生々しいものもあるかと思いますが、しっかり受け止め、今後の人生や平和を考えるきっかけにしてほしいと思います。

修学旅行通信(沖縄) 第2号担当 C2B担任 加藤直也

